

# 目 次

## 2015年秋季大会シンポジウム：現代フランス哲学の知られざるスピノザ

イントロダクション	上野 修	1
『分析手帖』とスピノザ構造と主体への問い	坂本 尚志	3
二人のスピノザ — ミレール＝バディウ論争の一側面を見る	信友 建志	17
概念の哲学から生命の哲学へ—カンギレムによるスピノザ主義の展開	藤井千佳世	32

## 2016年春季大会シンポジウム：フランス思想におけるイタリヤ

イントロダクション	檜垣 立哉	46
アガンベンとフランス現代思想	岡田 温司	48
制御社会における個性性と集団性をめぐって		
ポストオペライズモとポスト構造主義の交点への一視角	水嶋 一憲	58
「生存の美学」と〈生の形式〉		
— フーコーとアガンベンにおける他なる生の構想	武田 宙也	72

## 2015年秋季大会・一般研究発表要旨

スピノザにおける多数者と共通感情	寅野 遼	86
想起と痕跡：スピノザ『エチカ』における第一種認識への注	井上 一紀	87
有機組織体という機械——ラ・メトリにおける偶然	沢崎 壮宏	88
ベルクソンと獲得形質の遺伝	米田 翼	89
ベルクソンにおけるイマージュと身体	西山 晃生	90
『物質と記憶』における知覚と生	天野恵美理	91
間接的な他者への通路——初期サルトルにおける	赤阪辰太郎	92
レヴィナスにおける〈顔〉の倫理	春木奈美子	93
存在することの多元性 — レヴィナス『存在するとは別の仕方』から —	深貝菜緒子	94
メルロ・ポンティの言語論の目的論的性格	山倉 裕介	95
六〇年代ラカン理論における記号と因果		
— ドゥルーズ『意味の論理学』との距離——	上尾 真道	96
初期デリダにおけるハイデガーの遺産相続		
— 『ハイデガー』講義と存在論的差異	大江 倫子	97

## 2016年春季大会・一般研究発表要旨

スピノザ『エチカ』の論証について		
— 第1部定理19備考は何を示しているか	樋口 朋子	98
レヴィ＝ブリュールにおける相対主義について	伊東 俊彦	99

ベルクソンにおける「直観」の多義性—「形而上学入門」に基づいて	吉野 斉志	100
ベルクソンにおけるリズムの果たす役割		
—どのようなリズムが持続を暗示しうるのか—	長谷川暁人	101
アンドレ・ジッドの燃やされた手紙—ラカンの性別の論理式から読む	春木奈美子	102
ジャンケレヴィッチの道徳形而上学—「道徳上のコギト」を中心として	奥堀亜紀子	103
双極性障害の躁状態における時間性と不安		
—サルトルの『存在と無』から見た現象学的考察—	谷内 洋介	104
レヴィナスによる被投性解釈の変遷とその意義	石井 雅巳	105
中期レヴィナスにおける「古いの主体」	古怒田望人	106
Jeの背後における主格への道行		
—レヴィナスによるデカルトのコギト解釈を通じて—	田中 菜摘	107
メルロ＝ポンティとマクダウェル		
—知覚の弁証法と概念主義—	田村 正資	108
ジルバール・シモンソンの個体化論における「情報」概念の特異性について	堀江 郁智	109
『意味の論理学』における動詞の理論について		
—不定法、直説法、複合過去をめぐって—	平田 公威	110
Mots d'ordre chez Deleuze et Guattari : statut épistémologique et		
fonction politique	Evgeny BLINOV	111
Kant contre le kantisme : Foucault lecteur de l' <i>Anthropologie</i>	Yudai SHIMIZU	112
初期デリダにおける隠喩の問題	鈴木 康則	113
ナンシーはデリダに何を見たか		
—1960年代のジャン＝リュック・ナンシーの思考について	伊藤潤一郎	114
無限のアンティノミー：リシールのカントール読解を考察する	長坂 真澄	115
<b>公募論文</b>		
La métaphysique de la « nature » dans les natures simples chez Descartes	Masato SATO	116
希望・恐怖・復讐願望		
—スピノザ『政治論』における国家状態の原因としての共通感情—	寅野 遼	128
有機組織体という機械—ラ・メトリにおける偶然	沢崎 壮宏	139
ベルクソンとヴァイスマンの遺伝論	米田 翼	150
持続でもなく空間でもなく		
—ベルクソン哲学における『アリストテレスの場所論』の位置付け—	吉野 斉志	162
『物質と記憶』第一章における哲学の開始		
—イマージュ論と純粹知覚論の関係について	原 健一	173
Le dualisme et l'union chez Alain	Masahide NITTA	185

## 理想と現実の彼方にある倫理

——サルトル『文学とは何か』における承認論の意義…………… 赤阪辰太郎 194

## 意識と直観

——レヴィナス『直観理論』のフッサール解釈をめぐって—— …… 平岡 紘 206

## 無限の理念——存在と存在者の彼方で——

レヴィナスによる『カントと形而上学の問題』読解より …… 長坂 真澄 218

ラカンとストア哲学：あるいはドゥルーズ『意味の論理学』との距離 …… 上尾 真道 230

## La déterritorialisation du signe : l'origine de la langue et l'origine de la société chez Deleuze et

Guattari …… Evgeny BLINOV 241

ドゥルーズにおける jurisprudence ——権利の哲学について …… 西川 耕平 250

## 書評

大西克智著『意志と自由——一つの系譜学』…………… 沢崎 壮宏 261

中田光雄著『創造力の論理 テクノ・プラクシオロジー序論—カント、ハイデガー、三木清、  
サルトル、……から現代情報理論まで』…………… 清水 高志 265

小手川正二郎著『甦るレヴィナス—『全体性と無限』読解』…………… 平岡 紘 269

澤田直編『サルトル読本』…………… 赤阪辰太郎 274

『ドゥルーズ 没後 20 年 新たなる転回』…………… 平田 公威 278

清水高志著『ミシェル・セール 普遍学からアクター・ネットワークまで』…………… 縣 由衣子 282

金森修著『科学思想史の哲学』…………… 米田 翼 287

## 渡名喜庸哲・森元庸介編著『カタストロフからの哲学

ジャン＝ピエール・デュピュイをめぐって』…………… 本間 義啓 292

林洋輔著『デカルト哲学と身体教育』…………… 今井 悠介 297

大崎博著『ベルクソンの道徳・宗教論』…………… 小関 彩子 302

福居純著『デカルトの誤謬論と自由』…………… 竹中 利彦 305

## 会員の声

ドゥルーズ国際カンファレンス／コロック (CCIC) 参加報告 …… 小谷 弥生 309

久米稿「日仏哲学会のこれまで」を駁す …… 中田 光雄 311

## その他

日仏哲学会 2015 年度 (2015 年 9 月-2016 年 8 月) 活動報告 …… 313

日仏哲学会入会手続きについて …… 317

2017 年春季・秋季研究大会一般研究発表応募要領 …… 317

『フランス哲学・思想研究』公募論文応募規定 …… 318

「会員の声」投稿規程 …… 318

日仏哲学会若手研究者奨励賞規定	319
日仏哲学会会則	319
編集後記	321
Sommaire	